

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 8
2014.2

ニュース

「ライトフェスティバル」

寒い一夜にぬくもり

JU 城西大学
Jbc 城西短期大学

特集 薬学部「こま川めし」プロジェクト
地元食材で健康に
高麗川から世界へ食を発信

目次

- 02 [2014年 年頭あいさつ]
理事長 水田 宗子
「創立50周年に向けて
テイクオフの年」
- [ニュース]
ライトフェスティバル
寒い一夜にぬくもり
- 04 [特集]
「こま川めし」プロジェクト
地元食材で健康に
高麗川から世界へ食を発信
- [ニュース]
- 06 [紀尾井町ニュース]
- 07 [シリーズ]先輩訪問
セキ薬品社長 関伸治さん
- 08 [シリーズ]学生互版ワイド
学内外で活躍する城西人たち
- 10 [ニュース]
- 11 [エリア紹介]
坂戸市 坂戸のお釈迦さま
越生町 早春 梅まつり始まる
東武線沿線情報
外秩父七峰縦走ハイキング大会

(おこわり)
「浮世絵～水田コレクションより～」は休みました

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙
本学の年末の風物詩となった感のあるライトフェスティバルは12月14日午後4時半から開かれました。今年で4回目。水田記念図書館棟前のクリスマスツリーとジョー君がライトアップされ、特設ステージでは華やかなパフォーマンスが繰り広げられました。



2014年 年頭あいさつ
学校法人城西大学 理事長 水田 宗子

「創立50周年に向けて テイクオフの年」



とりが力を注いでいただきたい」と教職員に呼びかけました。

また、少子化の中で厳しい時代が続くとして「私立大学は、大勢の学生に来てもらって初めて存在価値がある。一人ひとりが募集にあたる気持ちで取り組んでほしい。中期目標への取り組みも含め素晴らしい結果がでるように、健康で活発な年にしたい」と結びました。

今年の仕事始めは1月6日に行われました。水田宗子理事長は年頭のあいさつで、来年の創立50周年を踏まえて「今年はテイクオフしなければならない年。記念事業としていくつかの新しい建物を造ることから始まる。この建物は学生たちが学ぶ場であり、思い出を残す場でもある。JUは創立者の資料館や国際センター、地域のセンターの機能を持つ薬学棟を、JIUは、サッカー場横と鴨川に留学生宿舎の建設を検討している」と紹介されました。「大変な創立期を乗り切り、迎える最初の50周年は多くの人たちが思いを寄せてくれる大事な節目。素晴らしい50周年を迎えられるよう、この1年、準備を進めていきたい。それぞれの部署で一人ひとりが力を注いでいただきたい」と教職員に呼びかけました。

イスラエルテーブルウェア展 ～2014.4.19

デザイン性豊かな食器20点

水田美術館で4月19日までの日程で企画展「イスラエルテーブルウェア展」が開かれています。ダイナーテーブルを囲んで、人と会うのを楽しむイスラエルの人たちは、毎週金曜になると伝統的な夕食をするため家族と会い、祝日や祝いの席にはそれぞれ特別な料理も出されるそうです。

会場では、イスラエルの25組の若手デザイナーやデザインスタジオによるデザイン性豊かで前衛的なプレートやボウル、グラスなどの食器20点が展示されています。オープン前日の2月6日に行われた開会式で、水田宗子理事長は、ローズガーデンにホロコースト記念館(広島県福山市)から贈られた「アンネのバラ」が植えられていることも紹介し、「いろいろな形で若い人同士の交流が進んでほしい」とあいさつしました。ペレグ・レヴィ駐日イスラエル大使館公使や秋山哲・日本イスラエル親善協会代表理事会長らによるテープカットで開催を祝いました。



レヴィ公使(中央左)の説明を受けながら作品を鑑賞する水田理事長

ニュース

ライトフェスティバル きらめくキャンパス 元気にパフォーマンス

寒い一夜にぬくもり

真冬のキャンパスを彩る「ライトフェスティバル」が昨年12月14日にありました。4回目となったライトフェスティバルは、経営学部学生会のよさこいと「あんず組&ローズマリー」や教員らによるダンス=写真上=で幕を開けました。その後に行われたオープニングの司会は、今年度の女性リーダー育成奨励生の小山夏美さんと坂本史織さんが務めました。2人が「創立50周年に向け、本学の元気の良さを皆様にお見せしたい」と述べた後、草野素雄副学長が開会あいさつ。引き続き、水田宗子理事長、森本雍憲学長、学生代表によるツリー点灯が行われました。

寒さを吹き飛ばすように学生や教員らの余興が次々に披露されました。チアリーダーのパフォーマンスのほか、ハンガリーや韓国からの留学生のコーラスや落語研究会の漫才、最後は松島憂弥さん(経営学部2年)のファイヤーダンスで締めくくりました。

ライトアップされたメインストリートの模擬店では、薬学部医療栄養学科考案のJスイーツ(シフォンケーキ、ゆず茶)や「貴雲塾」によるた焼き、ハンガリーやポーランドからの留学生によるスープ=同下、現代政策学部学生会による焼きそば、野球部員による豚汁、女性リーダー育成奨励生によるポタージュスープが用意され、参加者は冬の一夜をそれぞれに楽しんでいました。



「城西インターナショナルハウス」オープン 2014.1.23

留学生と日本人学生 交流の場に

女子留学生らの寮となる「城西インターナショナルハウス」のオープニングセレモニーが1月23日、キャンパス近くの現地で行われました。故渡辺好章元副学長の私財提供によって造られた野球部学生寮を大幅に改修して完成しました。木造2階建て、2人1部屋で16室あり、キッチンラウンジやランドリールームなども備えています。留学生と希望する日本人学生が共同生活をします。

概要説明で白幡晶副学長は「留学生と日本人学生が寝食を共にすることで異文化体験をしてほしい。また、近隣の方々にも国際交流の場として利用していただきたい」と述べました。水田宗子理事長は「心合わせて、ここでの生活を楽しいものにしてほしい」とあいさつし、夫人の渡辺道子さんとテープカット=写真。地元の区長さんや教職員、留学生ら約150人がオープンを祝いました。



奨励生授与式 2013.12.14

礎として成長の糧に

2013年度的女性リーダー育成奨励生(水田宗子奨学金)などの授与式が昨年12月14日、17号館1階プレゼンテーションルームで行われました。今年度授与されたのは計66人。水田宗子理事長は「これからの長い人生、これを礎として成長の糧にしていきたい」と語りかけました。学生を代表して女性リーダー育成奨励生を受けた大学院薬学研究科の星絢子さんは「今後も各種の教育プログラムやセミナーに参加して、日本と外国の橋渡しとなる女性リーダーになることを誓います」と決意を述べました。

- 各制度の人数は以下の通り。
- 〈女性リーダー育成奨励生(水田宗子奨学金)〉=5人
- 〈水田奨学生第一種・第二種特待生〉=38人
- 〈水田三喜男記念奨学生〉=11人
- 〈JMBAスカラーシップ〉=2人
- 〈キャリア形成奨学・奨励生(渡辺好章奨学金)〉=10人

特集 「こま川めし」プロジェクト 薬学部

地元食材で健康に 高麗川から世界へ食を発信

地元の食材を活かした日常のごはんを食べて健康になる——そんな願いを込めて「こま川めし」プロジェクトがスタートしました。プロジェクトは薬学部医療栄養学科の栄養管理設計学、分子栄養

学、食品機能学の三つの研究室によって進められています。メンバーは、「高麗川から始まった『こま川めし』が世界のKOMAGAWA・MESHIへと発展できたら」と大きな夢を膨らませています。

松本明世教授の説明によると、休耕地活用プロジェクトを進めていた現代政策学部の石井ゼミの学生たちの健康市民大学への協力をはじめ、管理栄養士の卵のサークル「DHA」の学生たちの野菜作りや坂戸市との共同によるルーコラのレシピ作りなど、さまざまな試みが今回のプロジェクトの誕生につながったといいます。

病院での管理栄養士の経験を持つ江端みどり准教授、韓国の管理栄養士の資格を持つ金賢珠講師らが指導、約20人の学生が参加しています。また、君羅好史助手は食品や料理の写真撮影にも力を発揮しています。

プロジェクトは、高麗川流域の特産物を活用し、健康長寿を目的とした日常的な食を開発するのが目的です。食品、食材に含まれる成分だけに着目するだけでなく、その歴史的、社会的背景も考察し、今後の産業化と特産物化も視野に入れながら、新たな食品、食材の開発やその調理方法、メニューも提案します。

これまでに開発したメニューは、奥武蔵名産の香り高い柚子と国産紅茶の先駆け「さやま紅茶」が出会った柚子紅茶の「ゆずべに」、太白と呼ばれるサツマイモを使った「いもミルク」、炊き込みごはんを地元野菜の「すいおう」で巻いた「すいおう巻き」など約20種類にも及びます。

研究の成果は、ホームページのほか、レシピ、リーフレットなどによって一般公開するとともに日本食生活学会などでも発表を予定しています。真野博教授は「高麗川は荒川に注ぎ、やがて太平洋につながります。こま川めしは、この埼玉から世界につながるシンボルになれば」と話しています。



薬用植物園で太白の収穫



▲地元の方と一緒に料理づくり
自生している野草
「シャクチンバ」の仕分け▶



スイーツ「Pofa」が人気

このプロジェクトからスイーツも生まれました。ライトフェスティバルでお披露目された「Pofa(ポファ)」。ふわふわのシフォンケーキなので、ハンガリー語の「ほっぺ」を意味する「Pofa」と名付けられました。1個80kcalの低カロリーで、当日は、日高市産の狭山茶を使った緑茶味、毛呂山・越生産の柚子を使った柚子味、毛呂山産のブルーベリーを使ったブルーベリー味の3種類=写真、計300個を販売したところ、約10分で完売しました。食品機能学研究室2年の名知結香子さんは「管理栄養士を目指す学生として、地場産業に関する勉強やメニューの研究開発、プレゼンテーションは大変勉強になります。今後はさらに味のバリエーションを増やして、皆さん楽しんでいただきたい」と話しています。



キャンパスから坂戸をPR

NHKラジオ公開生放送 2013.12.17

NHKラジオの「ここはふるさと旅するラジオ」の公開生放送が昨年12月17日、17号館で行われました。内藤裕子アナウンサーの司会で、午後0時半から25分間、ラジオ第一とFMで全国放送されました。会場では、市民の方々や学生、教職員ら約200人が生放送を盛り上げました。

まず、坂戸市の大宮住吉神社の神楽保存会のメンバーが種蒔きの座を古式ゆかしく披露しました。その後、神楽を勉強している薬学部の学生を代表して4年の江口武幸さんと3年の池田圭佑さんが中継カーに乗り、神楽に興味を持った経緯などについて語りました。江口さんは「地域のことが色々分かってきました」と語り、池田さんは「動きの難しさが魅力に感じた」と話しました。

薬学部のメンバーは9月に神楽の公演に参加する予定で、キツネ役が杵を使って土を耕す場面に挑戦、ごちない動きで会場の笑いを誘っていました=写真。

最後に休耕地を利用して酒造りのプロジェクトを行っている現代政策学部の石井ゼミを代表して4年の藤部佑哉さんが登場。「酒造りのすべての過程に学生が参加しました。道のりは長かったが、(お酒が)完成した今は、人として大きく成長できたのではないかと実感している」と語ると、会場から大きな拍手がわきました。



紀尾井町ニュース

法人本部および姉妹校の城西国際大学と共同で実施した事業やニュースなどをご紹介します。

チカダ賞 スウェーデン大使館で授賞式 2013.12.9

水田理事長 国際的な詩人賞受賞

水田宗子理事長が生命の尊厳を表現する東アジアの詩人に贈られる「チカダ賞」を受賞し、授賞式が昨年12月9日、スウェーデン大使館で行われました。この賞はスウェーデンの詩人でノーベル文学賞を受賞したハリー・マッティンソンの生誕100周年を記念して2004年に創設され、賞の名前は、1953年に出版されたマッティンソンの詩集「チカダ(蟬、の意)」に由来。「チカダ」には、日本への原爆投下などをきっかけに作られた作品が収められています。

日本人の受賞者は宗左近氏、金子兜太氏(俳人)に次いで3人目。水田理事長の詩は「知に裏付けられた世界的な規模でのモダニズムを体現しており、感情を対象化して清新な作品として独自の詩世界を成立させている」と評価されました。スウェーデンのラーシェ・ヴァリエ大使から蟬を描いた陶器のトロフィーと賞状を受け取った水田理事長は「このような名誉ある国際詩人賞をいただき、大変光栄です」と述べ、最後にマッティンソンの詩を日本語訳で朗読し、謝意を表しました。



ヴァリエ大使(左)と水田理事長

「V4+日本」安全保障セミナー 2014.2.4

中欧4カ国とさらなる交流を

外務省と本学などが共催して「V4+日本」安全保障セミナーが2月4日、紀尾井町キャンパスで開かれました。V4は、ハンガリー、チェコ、ポーランド、スロバキアの中欧4カ国のことで、セミナーは昨年に続いて2回目。今年は「V4+日本」交流年にあたっています。

セミナーには、セルダハイ・ハンガリー駐日大使や各国の大使館関係者のほか、本学と城西国際大学の教職員、留学生ら約160人が参加しました。水田宗子理事長はあいさつで「本学は4カ国の17大学で姉妹校提携をし、30人以上の留学生を受け入れてい

る。このほど学内に中欧研究所も設立した」と、V4諸国と交流を深めてきたことを強調。「明日の学生サミットで若い世代の交流にも期待したい」と述べました=写真。引き続き、参加者らは海洋安全保障や大量破壊兵器の拡散などをテーマに意見交換しました。5日は4カ国の大学の学生と在学生らによる「V4+日本」学生会議が行われました。



「異文化としての日本—ローマ帝国と日本」 2013.11.27

青柳文化庁長官が講演会

ギリシャ・ローマ考古学者の青柳正規・文化庁長官が昨年11月27日、紀尾井町キャンパスで「異文化としての日本—ローマ帝国と日本」と題して講演しました=写真。多文化共生センターとジェンダー・女性学研究所の共催による特別公開講座で、留学生や一般の聴衆約160人が興味深い話に聴き入りました。

水田宗子理事長はあいさつで、「(本学の)特任教授として『世界の中の日本』の科目設置や多文化共生センターの設立にお世話になった」と述べました。

青柳長官は講演で、ローマ帝国がなぜ300年もの繁栄を謳歌できたかを、領域国家としての強固な統治制度やキャリアパスが可能な階級社会、規律が厳格だった軍隊などの側面から説明しました。また、優れていた給水量や高規格道路の延長、都市建設などの数字を挙げ、「社会資本の充実が国の安定のために必要」と指摘しました。最後にローマと日本文化にも言及し、「日本は伝統的な文化と新しい都市の文化に距離があるのが、社会の不機嫌



さの大きな原因。双方が近づくことによって伝統と活力の融合した文化ができるようになれば、日本の将来は明るい」と結びました。

先輩訪問

各界で活躍するOB、OGを紹介する「先輩訪問」を随時掲載します。第1回は薬学部OBでセキ薬品社長の関伸治さんを、埼玉県北葛飾郡杉戸町の本社に訪ねました。

大学での交友関係は大きな財産



セキ薬品社長 関伸治さん

—創業40年。県内中心にドラッグストア120店舗、薬局12店舗と急成長を遂げられました。

「1990年から95年にかけて他社より早く郊外型のドラッグストアに移行したのが、大きなターニングポイントとなりました。郊外型になることで品ぞろえが豊富になり、お客さまの数が増えました」

—どんなご苦労がありましたか。

「ドラッグストアは、医薬品や化粧品など専門性の側面と食品や日用雑貨など便利性の側面を持っていますが、当初は便利性の品ぞろえで入手ルートを探すのに苦労しましたね。最初は足元を見られたり。しかし、社員が育ってきて、商品ルートの開発などで力を発揮するようになり、他店にないものをそろえていくことが楽しくなりました。ちょっと自慢になりますが、うちの店舗は他社さんより商品密度が高いんですよ」

—会社の方針として便利性ととも専門性、接客性を強く打ち出されています。

「専門分野の化粧品と医薬品は、実際に使ってもらって効果があったことを体験してもらうことが大事。それが信頼性につながります。研修センターを設けて、定期的に研修するなど社員教育にはコストをかけています。専門的知識と接客時の笑顔が重なっ

て信頼を勝ち得るということですね」

—学生時代に打ち込んだことはなんですか。

「進級試験の厳しさには鍛えられました。また、部活の漢方研究会で漢方を勉強したことはその後、役立ちました。一方で、ゼミでは研究のほか、旅行、ソフトボール、バーベキューなどをやったのが楽しい思い出です。あっという間に過ぎた4年間でしたが、充実していました。やるときはやるということを感じた気がします」

—現役の学生にメッセージをお願いします。

「社会人になってから、たくさんの城西の卒業生に会いました。同じ母校という仲間意識があって、さまざまな形で助けてくれる。そのメリットは大きいです。勉強だけでなく、交友関係を広げて未来につながるものにしてほしいと思います。それが財産となって、いずれ花が咲きますよと言いたいですね」

■セキ薬品

1973年12月、第1号店開業。資本金8320万円。売上高480億円(13年4月末現在)。従業員約1600人(パート含む)。日本ドラッグストアの多い埼玉県でナンバー1のドラッグストアをめざす。19年度末の目標は250店舗。

「スウェーデンの選択と未来」 2013.12.17

スウェーデン大使 2回目の講演

駐日スウェーデン大使のラーシェ・ヴァリエ大使は昨年12月17日、紀尾井町キャンパスで公開講座として講演を行いました。大使は、12年7月にも城西国際大学大学院でのプログラム「新しいグローバル社会と日本の将来」でも講演。今回が2回目となりました。

水田宗子理事長は「スウェーデンはノーベル賞をはじめとする

学問分野だけでなく、世界的な企業も多く、女性の社会進出も進んでおり、日本が見習う点が多い」とあいさつしました。「スウェーデンの選択と未来」と題した講演で、大使は、スウェーデンと日本との相違点や高負担制度に支えられたスウェーデンの社会福祉制度などについて、日本語で時にユーモアも交えながら話しました。本学やJIUの学生ら約130人が熱心に耳を傾け、講演会終了後のレセプションで大使と交流を深めました。

シリーズ

学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

TA室 パソコン技術 学生がアシスト

TA室は清光会館の3階にある。TA(ティーチング・アシスタント)は、リテラシーや情報技術などのパソコンを使用する授業で、生徒からの質問に答えるなどして先生方のサポートをしている。CA(センター・アシスタント)は、TA室でパソコンを使用している生徒の質問に答えたり、パソコン室の管理などを行ったりしている。

TA、CAには学部を問わず、現在約25人の学生がいる。メンバーに聞いたところ、TA室での対応で難しいのは、話しかけてほしくない生徒と分からないことを聞きたい生徒を見極めることだったそうだ。しかし、教えることによって自分自身の知識も高まっていくのが実感でき、やって良かったという。

学生へのメッセージを聞いてみた。「パソコンは面白いので、好きになってほしい。教員を目指している方、ここでは良い経験ができるのでぜひ来てほし

い」とのこと。最後にTA室は飲食禁止ですので、皆さんご注意を!

(取材:広報委員会2年・栗原勇斗、戸塚優樹、鈴木彩加、須田達也)



TA室の学生たち

グリークラブ 学内外で歌声を披露

合唱好きが集い、日々精進しているのが「グリークラブ」だ。NHKの合唱番組に出演した経験を持つ外部講師を招いて練習しているほか、大学内外でのイベントで自慢のコーラスを披露している。

合唱曲というと少々堅苦しい曲をイメージしがちだが、「空も飛べるはず」や「銀河鉄道999」などをはじめとして、童謡や中高校時の合唱コンクールで歌われている曲など幅広いレパートリーがあるという。

メンバーは現在9人。1年生ながら部長を務める本多涼太さんは「練習の中で自身の成長を感じたり、全員で奇麗な合唱ができたときに部活動とし

てやりがいを感じる」と合唱の魅力を語り、「イベントの際には、ぜひ聴きにきてほしい」と話していた。

(取材:広報委員会2年・松本拓郎、丹波瞭、戸澤敦子)



イベントではコラボレーションも

研究はチームワークが大切

理学部合成有機化学研究室 秋田素子教授

理学部の秋田素子教授は、合成有機化学を専門に研究している。合成有機化学とは、各分子に機能や情報を与えて有機分子として新しいものを作り出す研究だ。現在は主に磁石の性質を持つ化合物の合成を行っている。

学生時代に行っていた、分子の形の変化に伴う物性の変化や温度によって色が変わる化合物についての研究を通して、その楽しさや厳しさを知り研究を始めたそうだ。そして、好きな研究を続けていきたいという気持ちから教育・研究者の道に進んだ。

研究を続けるうえで大切なことは、「研究室内のさまざまな分野にたけている人たちとチームを組んで取り組み、切磋琢磨すること」と言う。秋田先生は専門分野の魅力について「自分で分子を設計し、その性質を調べられる点」だと語る。最後に学生へ「後悔しないように何事にも一生懸命取り組み、そこ



研究室の様子

から分かる楽しさを見つけてほしい」とのメッセージをいただいた。

(取材:広報委員会3年・近藤一樹、萩原優人、田中陽子)

警備のおじちゃん(警備員さん) 24時間体制で校内の安全を守る

前号の「緑のおばちゃん」に引き続き、今回は働く人シリーズ第2弾として、大学を裏方から支えてくれている警備のおじ



ちゃんたち取材した。おじちゃんたちは全員で11人、グループによる交代制で勤務している。

寒い日も暑い日も24時間体制で鍵の管理と正門の車の出入りへの対応、日中の校内巡回などを行っている。おじちゃんたちが大切にしているのは、行動4原則と呼ばれるものだ。①大きな声で②キビキビと行動し③自分たちからあいさつし④明るい笑顔で接する——に気を付けて学生や学校関係者に接しているという。24時間体制のため、月に1回行うミーティングも一度に全員は集まれないので、2回に分けて行われている。

警備のおじちゃんたちは「制服を着ているので怖いと思われるがちだが、優しい人たちがばかりなので、何か困ったことがあれば声を掛けてほしい」と話していた。

(取材:広報委員会2年・貝沼大輔、中原雅人、池田みなみ)

教育研究部 教員目指しボランティアに励む

教育研究部は最も新しい部活の一つだ。教員を目指す6人で活動。武州長瀬駅の近くの「寺子屋さとう」で、小学生たちにボランティアで勉強を教えている。

部員が少ないため、寺子屋での行事の企画、運営などで苦労することもあるようだ。活動日時は毎週火、水、木、金曜日の午後6時から7時半。部員の都合によっては、寺子屋に行けない日もあるという。それでも、部員がスケジュールを調整し合っ

て、子どもたちが勉強をしやすい環境づくりをめざして活動を続けているという。

部長の北裏裕志さん(経営学部2年)は「部員と寺子屋に通う小学生の人数を増やすことはもちろん、寺子屋を小学生だけではなく教育研究部の学生たちも楽しめる場にしたい」と今後の抱負を語っている。

(取材:広報委員会2年・戸澤敦子、松本拓郎、丹波瞭)

ニュース

清子先生の一周年法要 2013.12.22

150人が遺徳を偲ぶ

学校法人城西大学名誉理事長だった水田清子先生の一周年法要が昨年12月22日、都内の護国寺でとり行われました。

一周年法要には水田宗子理事長や家族、親族、大学関係者ら約80人が参列しました。また清子先生を偲ぶ会が、引き続き都内のホテルで開かれ、ゆかりの人々約150人が集まりました=写真。水田理事長は「政治家・水田三喜男の妻として選挙を手伝い、苦労を重ねてきた。その母の姿をいまでも思い出します。水田三喜男が亡くなった後は理事長として大学発展の基礎をつくってくれた。城西大学は15年に建学50周年を迎えます。一緒に喜んでくれるでしょう」とあいさつしました。また、森英介衆院議員らが「清子先生が亡くなり、今も寂しい気持ちでいっぱいです」と清子先生を偲びました。

清子先生は、夫の水田三喜男先生の跡を継ぎ、76年に理事長に就任。その後、昨年創立30周年を迎えた女子短期大学部（現城西短期大学）を設立するとともに92年には城西国際大学を創設しました。



に就任。その後、昨年創立30周年を迎えた女子短期大学部（現城西短期大学）を設立するとともに92年には城西国際大学を創設しました。

「2014城西大学就職セミナー」 2014.1.24

約200社が参加

「2014城西大学就職セミナー」が1月24日、東京・池袋のホテルで行われ、約200社の企業の幹部や採用担当者が参加しました。第1部は杉林堅次副学長が「化粧品の有用性とリスクを考える」と題して講演。第2部の懇親会で、水田宗子理事長は「城西大学は来年50周年という大きな区切りを迎えます。さまざまなことを企画しており、企業の方々に城西の姿をお見せしたい。今後とも変わらぬご支援をお願いします」とあいさつしました。

森本雅憲学長は、水田理事長がハンガリー政府から勲章を授与されたこととスウェーデンの詩人賞「チカダ賞」を受賞したことを紹介して乾杯に移りました。企業担当者と本学の教員による談笑の輪が広い会場のあちこちに広がっていました=写真。



永年勤続表彰 2013.12.14

40年、30年で計12人

2013年度の永年勤続表彰が昨年12月14日、清光会館で行われました=写真。40年が7人、30年が5人。表彰者を代表して永都久典理学部教授は「この40年を振り返ると大学が大きな発展を遂げました。まことに充実した年月でありました」と語るとともに、サッカー部の部長としてサッカー場がきれいになったことのお礼を述べました。



永都教授以外の方々は次の通り。
 〈40年〉清水公一・経営学部教授▽紺野東一・理学部助教▽植田治・学生課長▽若生政江・図書館事務長▽吉田美知子・人事課長補佐▽高柳三恵子・総務課〈30年〉伊藤陽・理学部准教授▽北川浩子・理学部准教授▽和田美知子・短大講師▽牛窪紀夫・語学教育センター事務長補佐▽遠山明広・管財課

第90回箱根駅伝 2014.1.2-3

悔しい19位 リベンジ誓う

第90回東京箱根間往復大学駅伝競走は1月2、3の両日に行われ、11年連続の出場となった駅伝部は19位となり、シード権獲得に届きませんでした。

今回は記念大会で例年より3校多い23校で争われました。本学は1区に主将の山口浩勢選手（経営4）、2区にエースの村山敏太選手（経営3）を置き、往路で上位をキープする作戦でしたが、往路は20位。復路も19位で総合19位となりました。そんな中で、6区の下下りで菊地聡之選手（経営1）が区間6位と気を吐きました。

レース後の報告会=写真=で榑部静二監督は「予選会を終わって上向き傾向にあったが、悪い面が出てしまった。今回出てきた新しい芽をつまみまい、1年を通じて走れるようにし、結果を出したい」と述べました。「往路の流れを変えなければと強い気持ちで走った」という菊地選手は「今回の問題点を克服して、また大手町に帰ってきたい」と決意を語りました。このほか、下級生からは来年のリベンジを誓う発言が相次ぎました。



エリア紹介

坂戸市

坂戸のお釈迦さま（釈迦降誕祭）

江戸時代、坂戸の地を治めていた「島田次兵衛重次（しまだじひょうえしげつぐ）」によって「永源寺」（坂戸市仲町12-69）が創建され、その「重次」から三代後の「島田出雲守忠政（しまだいずものかみただまさ）」が



長崎奉行の時、中国より伝来した「降誕釈迦如来像（誕生仏）」を寺に奉納したのが、「坂戸のお釈迦さま」の起源とされています。

以来、300年余りの長い歴史を持った祝典は、昭和54年に、民俗行事としての歴史的な価値を認められ、坂戸市の無形民俗文化財に指定されました。

お祭り当日は、本堂前に「誕生仏」の像を納めた小さなお堂が建てられ、竹のひしゃくで甘茶をかけ、家内安全、心願成就、商売繁盛などを祈願する参拝者=写真=と、植木市や多くの露店も出店してにぎわいます。毎年5月5日に開催されていますので、坂戸のお釈迦さまにお出かけください。

越生町

早春 梅まつり始まる

梅は百花の魁（さきがけ）、訪れた多くの人たちを魅了してきた越生梅林の開花時期を迎えました。明治期には佐佐木信綱、田山花袋、野口雨情らがこの地を訪れ、その風情を詩歌に残しています。関東三大梅林の一つに数えられる越生梅林は約650年前、九州の太宰府天満宮から梅園神社を分祠した際に、菅原道真公にちなんで梅を植えたことが始まりであると伝えられています。そのころ植えられた古木「魁雪」をはじめ、約1000本の梅の花が咲きそろいます=写真。

今年の梅まつりは2月22日（土）から3月23日（日）までの期間と



なっています。2月の土・日曜日と3月のまつり期間中は、かつて八高線で走っていた国鉄9600形のミニSLが、梅林のなかを一周253分で運行されます。また、獅子舞やお囃子などの郷土芸能が披露されるほか、観光案内ボランティアによる史跡めぐりも行われます。

梅一輪一輪ほどの暖かさ。暖かさにつられて、越生のふくよかな梅の香りを楽しんでみてはどうでしょうか。

東武線沿線情報

外秩父七峰縦走ハイキング大会開催!

東武鉄道では、年間を通してハイキングイベントを実施しています。東武東上線の実施するハイキングの中でも、毎年8000人以上の応募がある非常に人気の大会が「外秩父七峰縦走ハイキング大会」=写真=です。大会といっても、競争ではなく脚だめしの大会です。今年は4月20日（日）に実施いたします。1日で完歩を目指す方や2年にわたって完歩を目指すなど希望に応じてご参加いただけます。2月4日（火）から3月13日（木）までを応募期間としており、7000人という定員が決まっています。ご参加希望の方はぜひ早めにご応募ください。

ハイキングというまだまだ、中高年の方が参加するイベントだと思う方もいますが、最近では学生やご家族での参加など多くの方が参加しています。自然豊かな東上線をぜひ知っていただき、完歩したときの爽快な気分を味わいに歩いてみませんか。詳しくは、駅置きの応募用紙または東武鉄道ホームページをご覧ください。



編集／学校法人城西大学 広報センター
 発行／城西大学 総務部総務課
 〒350-0295
 埼玉県坂戸市けやき台1-1
 TEL049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>